

なんじゃもんじゃ

Municipal Ena Hospital Public Relations Magazine



当院は平成22年より
(財)日本医療機能評価機構の
認定を受けております。



恵那病院HP



病院Facebook



脂肪肝と言われたら	1
透析事業導入検討委員会の活動	2
職員募集	2
回復期病棟における家族教室の取り組み	3
外来担当表	4
クイズ	4
編集後記	4

脂肪肝と言われたら

健康診断などで肝機能の項目で異常を指摘されたことはありませんか？要医療判定となり医療機関を受診して、エコーなどの検査の結果「脂肪肝ですね」「食事に気をつけて運動する習慣を持ち体重を減らしましょう」と言われたことはありませんか？

最近まで脂肪肝は良性的の疾患であり、それ単独で肝臓が進行性に悪化していくことはないと考えられていました。しかし、アルコールを飲む習慣もなく、B型やC型などの肝炎ウイルスも陰性で、従来脂肪肝と診断されてきた方の中に、肝炎・肝硬変・肝がんと進行していく方があることが分かってきました。現在では、脂肪肝はまずアルコール性脂肪肝と非アルコール性脂肪性肝疾患 (non-alcoholic fatty liver disease : NAFLD) に分けられます。NAFLD はさらに、単に肝臓に脂肪が蓄積しただけで病気が進行することのない単純性脂肪肝と、肝細胞の破壊や線維化を伴い肝硬変に進行する可能性のある非アルコール性脂肪性肝炎 (non-alcoholic steatohepatitis : NASH) に分けられます。

つまり、肝臓の病気と言えば、以前はアルコールを飲む人や肝炎ウイルスに感染した人だけが問題にされてきましたが、アルコールを飲む習慣もなく、肝炎ウイルスにも感染していないのに、肝硬変や肝がんなどの状態にまで至ってしまう人 (NASHの人) がいるということなのです。

飽食の時代と言われる現代社会では、肥満の方は増加傾向にあります。それとともに肝機能異常を指摘される方も増えており、実際に健康診断を受ける方の約3割もの人がNAFLDに該当するとも言われています。

メタボリックシンドロームという概念が10年ほど前に提唱されました。内臓脂肪の蓄積により、高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病が重なって起こっている状態のことを言います。それによって動脈硬化が進行し、心筋梗塞や脳梗塞など命にかかわる病気の将来的な発症が危惧され、一命をとりとめてもその後遺症と一生付き合っていくことを余儀なくされてし

まいます。メタボリックシンドロームの診断基準には肝機能の項目はありませんが、メタボリックシンドロームもNAFLDも肥満がその根底に存在している点で共通しています。

NAFLDと診断された場合に、進行の可能性の低い単純性脂肪肝なのかNASHなのかを区別することが必要になりますが、そのためには肝臓に針を刺して組織を採取する肝生検が必要になります。体に負担がかかる検査のため、肝機能異常・脂肪肝を指摘されたすべての方が肝生検を受けることは現実的ではありませんし、その必要もありません。定期的な経過観察をしていくことがまずは大切で、肝生検までするかどうかについてはかかりつけ医に一度ご相談いただくのがいいかと思えます。

NAFLDとメタボリックシンドロームは、肥満がその発症に深く関与しているという点で共通していますので、治療の点でも共通しています。食事療法・運動療法による体重減少をはかり、併存する高血圧・糖尿病・脂質異常症に対する薬物療法も必要になります。NASHについては肝硬変や肝がんなどの肝臓関連死の確立が高くなるため、早期発見・早期治療のための定期的な通院・検査が非常に重要となります。

今回のお話のまとめです。肝臓は沈黙の臓器とも呼ばれており、異常があっても自覚症状が出にくい臓器です。特に自覚症状がないからと安心せず、肝機能異常を指摘されたらお近くの医療機関を受診いただきたいと思えます。従来アルコールを飲まず、肝炎ウイルスに感染していない人の脂肪肝は心配ないとされていましたが、一部に肝炎・肝硬変へと進行してしまう脂肪肝があることが明らかになってきましたので、医療機関でのエコーなどでの検査で脂肪肝と言われたら、食事療法・運動療法などの生活習慣の改善から始めていただき、薬物の処方なくとも定期的な医療機関受診を続けていただくことをお願いします。

(内科医師 市川 伸也)

透析事業導入検討委員会の活動

委員会の説明の前に、人工透析室（仮称）の紹介を少しさせていただきます。
場所は2階の南側となり、恵那山が展望できるかと思えます。
ベッド数は20床となります。1床は感染症に対応した個室となります。
透析機器は全台オンラインHDF対応を予定しております。



当委員会の活動目的は、病院再整備事業に係る透析事業導入の遂行に万全を期するため、必要な事項を検討することです。

透析事業導入検討委員会は毎月1回開催しています。

現在当院では、慢性維持透析患者さんを対象とした治療は行っておりません。したがって、慢性維持透析患者さんの治療はゼロからのスタートとなります。

そこで、透析事業導入検討委員会の下部組織として、透析WG（ワーキンググループ）を発足し毎月1～4回ミーティングを行っております。WGメンバーは看護師5名（透析経験者2名）、臨床工学技士3名（透析経験者2名）です。WGでの検討内容は透析治療に必要な手順の作成、物品の検討等を行っております。

手順作成にあたり、地域医療振興協会関連施設の協力を得て施設見学させていただきました。WGでは透析経験者の意見や、施設見学で得たものを活かして、患者様が安心して安全な透析療法を受けられるように検討を行っております。WGの内容は上部組織である透析事業導入検討委員会で報告し更に良いものになるように検討を行っております。

現在計画中ではありますが、開院時には5名の透析患者様に対応できるよう検討しております。以上、簡単ではありますが透析事業導入検討委員会の活動内容にさせていただきます。

（臨床工学室 細田勇）

職員募集（正職員）

職 種	①診療放射線技士（1名） ②作業療法士（1～2名） ③介護福祉士または介護【看護】助手（1～2名）
採 用	平成28年5月1日、採用者決定まで随時毎月1日付採用（試用期間3ヶ月）
勤 務	日勤（シフト制など）、有給・特別休暇などの詳細は面接時に説明
配 属	①放射線室 ②リハビリ室など ③通所リハビリテーションセンターなど ※②・③は病院の各部署および附属事業所への人事異動もあります。
給 与	履歴書・職務経歴書などを考慮のうえ、決定します。
条 件	普通自動車運転免許、①～③は国家資格免許も必要（③の助手については資格免許不要）
試 験	面接試験および小論文（小論文は実施しない場合も有） ※必ず事前に電話で問合せのうえ、履歴書等を郵送ください。
問 合 先	森井事務部次長（平日8:30～17:00の間 TEL 0573-26-2121（代表））



「回復期病棟における家族教室の取り組み」

当院では業務改善に対するさまざまな取り組みを行っています。

その中で当院 Q・I (Quality Improvement : 質の改善) 委員会は、毎年各部署を対象に1年間通じて行った業務改善活動を発表する機会を設けています。審査員は当院管理者をはじめ、各部署の部長が務めています。

今回は、この発表の審査において、見事1位に輝きましたリハビリテーション科の内容をご紹介します。

内容は「回復期病棟における家族教室の取り組み」です。

ご家族のリハビリへの理解や積極的な参加は、リハビリを進める上で重要な要素となります。しかし、患者様やご家族より、退院後の生活やリハビリの進め方に対して様々な不安の声が聞かれました。

そこで、まず患者様やご家族の不安に対する現状把握を行うため、アンケートを実施しました。アンケートに答えていただいた大半の回答者が、介護力や退院後に受けられる社会制度が分からないといった、退院後の生活に直結する内容に不安をいただいていることが分かりました。患者様やご家族に入院中や退院後の生活について説明し不安が少しでも解消できるよう、リハビリスタッフより個別で家族教室を実施しました。

家族教室を実施するにあたり、説明と共にイラストや写真を加えて、病気やリハビリのこと、さらに病棟生活や入棟から退院までの流れについての資料を作成しました。

家族教室を実施し、リハビリの内容や、病棟生活自体がリハビリであるということ、さらに退院までの流れを詳しく説明することで、理解度が深まり、退院後の生活に対する不安の解消に繋がりました。また、家族教室を受ける側、行う側ともに家族教室の必要性を感じており、高い満足度も得られました。今後は改善点を見直しながら、家族教室を継続していきたいと思えます。また、他部門とも連携を取りながら家族教室を実施し、患者様やご家族のリハビリに対する理解を得て、早期退院へ繋げていけるよう努力していきたいと思えます。

以上、リハビリテーション科が年間を通じて行った活動です。この結果をもとに、さらに地域住民の皆様にご信頼していただけるリハビリテーションを提供できるよう精進してまいります。

(リハビリ室 松田 直哉)

